

國際協力



地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業

マリ・クリコロ州



事業概要

人々の生活を支えるアフリカの「里山」において、地域住民自らが育て、自身で利用できる小さな林づくりを行い、最終的に里山を再生し生活の安定化を図ることを目的としている。主な活動は以下のとおり。①住民による里山の再生（苗木配布による小さな林づくり、植林ワークショップ、配付苗のフォローアップ）、②里山再生モデルの実践（植林技術を研修した村人が実践者として、個々の里山で育苗・植林を行う）、③試験地・見本林での植生回復技術及び栽培技術の開発（荒廃地の植生回復、有用在来種の育成・生育促進、果樹の栽培技術など）。

事業成果

3地域で、41カ所の村・学校に苗木を配布し、それぞれ小さな林づくりを進めた。特に学校・保護者・管理委員会などと協働して小学校11校に学校林を継続して育成した。里山再生モデルの実践では、昨年より効果が得られている

雨期前の植栽を積極的に進め、その後の降雨によって生育が格段に促進された。人的ネットワークの拡大をめざして、新実践者への支援を、既存の実践者の協力を得て始めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・サヘルの森の支援を受けて、学校の校庭に学校林が育成され育ったことは、大変誇らしく思う。(小学校校長)
- ・草も生えなかった裸地に、どのようにすれば1年で草が生え木が育つか。大変驚いた。(住民)

参加者の声

- ・在来種のトロを育苗して畑に植えた。市場では枝葉が家畜の飼料として高値で取引されるが、村周辺の里山でもだいたぶ数が減っている。(実践者)
- ・近くの街では、建設ラッシュで建築補助材としてユーカリの材の需要が増えた。ユーカリをたくさん育苗して育て、需要に応えたい。(実践者)



苗木配布



農園の柵内に配布苗を植える



校庭に植樹



在来種チャンガラを直播

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1万1360本

参加者数

マリ：3723人

計：3723人

樹種

ユーカリ、バオバブ、カシュー
ナットノキ

フィジー 森林と海の生物多様性保全に向けた植林と環境教育推進プロジェクト

フィジー・ビチレブ島



事業概要

リゾート開発等により森林やマングローブの伐採が進み、生物多様性が劣化するとともに、海面上昇や大型サイクロンなどの異常気象による被害が深刻化しているフィジー・ビチレブ島において、持続的な緑化・環境保全活動を促進するため、植林活動及び実践的な環境教育を実施。主な活動は、15の学校及び周辺地域における植林・環境教育活動、育苗活動、マングローブ植林など。

事業成果

事業3年目である今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動が制限されるなかではあったが、地域の協力もあり、13の学校・地域で植林活動を行った。各種規制により、環境セミナーやエコキャンプなどを開催できなかったが、各植林活動の際に講義を行い、植林を含む環境

保全の意義を伝えることで、子どもたちや地域住民の意識の向上に努めた。政府からも高い評価を受けており、青少年を巻き込んだ継続的な活動が期待されている。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境意識の啓発を行いながら、進めるこの緑化活動は素晴らしい。(ナンドロ／ナボサ県環境委員会)
- ・気候変動は待ってくれないので、引き続き森林やマングローブの再生に取り組む必要がある。(村長)

参加者の声

- ・クラスリーダーとして、植林活動に参加できたことを誇りに思っている。これからも学校や地域をよりよい環境にしていきたい。(8年生)
- ・この取り組みを継続しながら、周囲の地域にも植林の輪が広がっていくように働きかけたい。(校長)



マングローブ植林



学校での植樹



砂丘公園での清掃活動



海岸樹木の育苗

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.79ha
植付本数：4726本

参加者数

フィジー：651人
計：651人

樹種

マホガニー、フィジーマツ、ココナツ、サワーソップ、サンダルウッド、マングローブなど

インドネシアマドゥラ島 水保全に向けた緑化と環境教育の推進

インドネシア・東ジャワ州スメネプ県、パメカサン県



事業概要

乾季には深刻な水不足、雨季には大洪水の被害が多発しているインドネシア東ジャワ州のマドゥラ島において、水保全に向けた植林活動と持続的な環境保全活動を促進するため、環境教育・啓発活動を実施。主な活動は以下のとおり。「まちの森」における植林活動、20の学校における植林活動・環境教育活動・水保全学習の実施、マングローブの植林活動、雨水貯水設備設置（2校）、水タンクの設置（1校）、環境教育冊子の配布、教員向けワークショップの実施。

事業成果

第3期初年度である今年度は約3haの緑化を行った。植林活動には、20の学校が参加し、そのうち水源の確保が難しい2校に対し、雨水貯蔵設備を支援、その他1校に、水タンクを支援するなど、水環境の改善にも務めた。新型コロナウイルスの影響により、移動や集会の規制により、エコキャンプは実施できなかったが、その代替活動として、前

年度作成した環境教育冊子の配布を行ったほか、参加校の教員を集めたワークショップを実施し、コロナ禍における環境教育について、意見交換を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちは多くのことを学んでいる。この活動が大きく広がっていくことを願っている。(県環境事務所課長)
- ・このプログラムは、子どもたちが自分の周りの環境を愛し、気にかけるようになるためのヒントを与えてくれる。(県環境事務所課長)

参加者の声

- ・子どもたちや教師は、自分たちの学校、自分たちの地球を緑化するという熱意があふれている。(小学校教員)
- ・学校の環境も、緑が増え、木陰もたくさんできた。またエコキャンプなどの活動も再開してほしい。(中学校8年生)



マングローブ植樹 (中学生)



ごみ処理場での植樹



教員向けに実施したワークショップ



雨水貯蔵設備とあわせて設置した手洗い場 (小学校)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.62ha
植付本数：3195本
下刈面積：0.04ha
除伐面積：0.02ha

参加者数

インドネシア：1511人
計：1511人

樹種

マトア、アカシア、マホガニー、チーク、レインツリー、モクマオウ、マングローブほか

カンボジア国コンポンチャム州における持続可能な森林管理を目指した植林事業(フェーズ2)

カンボジア・コンポンチャム州



事業概要

カンボジア国コンポンチャム州は森林密度が非常に低い上に、洪水や干ばつ等の気候変動による影響に対して脆弱な地域である。貧困な地域住民にとってはこれらの災害の緩和は喫緊の課題である。森林の増加によりこれらの災害による影響の緩和が期待され、住民の生計向上が期待される。そこで、本事業では、急速な森林減少と劣化に伴い生物多様性の減少が進む同地域において、地域住民の生活に深く根付いている寺院および小学校を軸に、持続可能な森林管理をめざした植林を実施した。また、植林や森林保全の重要性に関する理解の向上をめざしたワークショップを実施した。本事業では植林活動に加え、持続可能な森林管理に関する地域住民の知識・技術の向上と環境・森林保全の啓蒙活動を行った。

事業成果

計画当初は2校での植林を予定していたが、別の小学校

からも植林活動を実施したいとの要望があり5校の実施となった。本年度は昨年度のような干ばつは起こらなかったこと、また教員を中心とした森林管理グループの積極的な管理もあり、2020年7月に植林した小学校では苗木の95%の生存率、また別の小学校でも85%の生存率を確認することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者は木の重要性について深く理解することができた。(小学校教員)
- ・植林活動が地域コミュニティへの貢献活動となったと感じている。(村長)

参加者の声

- ・絶滅の危機にさらされている在来種を植林することができて良かった。子どもたちのためにもまた植林活動を実施したい。(小学校教員)
- ・もっと木を植えたい。(小学生)



ブラトン小学校での植樹



サムロン小学校での植樹



フンセンアピバ小学校での植樹



オームル小学校でのワークショップ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5ha

植付本数：7000本

参加者数

カンボジア：115人

計：115人

樹種

メンガ、ケランジ

地球温暖化防止と日中友好の森づくり事業

中国・内モンゴルエジンホロ旗



事業概要

企業（株）日本触媒が植樹した苗木の生長を目的として、現地林業局の協力のもと、日常的な維持管理の活動を実施した。具体的な作業としては、雨量に応じた水やり、病虫害対策として消毒薬の散布、森林火災防止策として除草などを実施した。また小動物による被害対策としての巡回も実施した。

事業成果

新型コロナウイルスの影響に伴い、日本から中国へ訪問することができなかったものの、当センターの中国事務所を通じて植林地の様子を伝えてもらい、協力企業側とも状況を共有することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植林地の木々は順調に成長しています。今年度は日本から来てもらうことはできませんでしたが、また皆さんと会えるのを楽しみにしています。（エジンホロ旗林業局）



防火対策の除草



防火対策の除草



散水



枝打ち

実績とりまとめ

作業内容

これまでの10年間で植林した苗木の維持管理として、年間を通じて、水やり・除草と日常的な巡回活動。

参加者数

中国：27人
計：27人

モンゴル国ブルガン県における森林再生並びに環境教育事業

モンゴル・ブルガン県



事業概要

森林火災や違法伐採により森林が減少しているモンゴル国ブルガン県において、学校及び周辺地域で、森林再生のための植林活動及び持続的保全をめざした環境セミナーを実施。さらに、次世代の育成を目的に、学校敷地内での植林活動と環境教育活動を実施。主な活動は以下である。①森林再生の為に植林活動及び住民対象の環境セミナー、②7つの学校敷地内の植林活動・環境教育活動。

事業成果

ブルガン県内の森林再生を目的に地域住民達と共に植樹することができた。そして、持続的な保全活動を続けるため、住民対象の環境セミナーをオンラインで実施、環境保全の意義や意識の向上に努めた。学校では、7校敷地内に植樹を行い、あわせて環境意識の向上を目的とした環境教育活動も実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・セレンゲの植林地で進める緑化活動はこの地域のモデル事業である。住民と共に、この事業を今後もサポートしていきたい。(セレンゲ区区長)
- ・子ども達にとって、環境の問題を学ぶのに、知識と実践活動をあわせて学ぶことはとても意義がある。今後もオイスカと共に取り組みたい。(ハンガル村学校校長)

参加者の声

- ・森林の伐採や減少にはこれまで心を痛めてきた。この活動を通じて、少しでも地域の環境が元に戻るお手伝いができることを嬉しく思っている。(セレンゲ区住民)
- ・環境セミナーをオンラインで受講し、普段は学ぶ事ができない大学の先生達から環境保全や緑化のことを学べてとても有意義な経験ができた。とても分かりやすく理解もしやすかった。(ブルガン県住民)



ブルガン県内での植樹



ダシンチレン村での植樹



ヒャラガンタ村の学校での植樹



苗木の説明

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.17ha
植付本数：2340本

参加者数

モンゴル：677人
計：677人

樹種

カラマツ、エゾノウワミズザクラ、カエデ、ライラック

カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業

カンボジア・モンドルキリ州、クラチェ州



事業概要

収奪的な森林開発により森林減少・劣化が進むカンボジア国東部において、人と自然が共生できる里山の再生をめざしている。本事業は3年計画の1年目。3年間の事業終了後には地域全体で自立的に緑化が推進されることをめざして、森林管理住民グループ、地方行政機関、小学校、寺院と連携して、以下の活動を実施した。①里山再生を目指した植林、②持続可能な森林管理に関する知識・技術力の向上を図る研修、③里山再生の重要性を啓蒙するワークショップ、④適切な森林管理に必要な知識・技術と森林と里山再生の重要性を記したパンフレットの配付を行った。

本事業では植林活動に加え、持続可能な森林管理に関する地域住民の知識・技術の向上と環境・森林保全の啓蒙活動を行った。

事業成果

森林破壊が著しいカンボジア国東部の2つの州で植林活

動を実施することができた。住民は植林活動を通して、森林保護・保全の重要性について理解を深めることができた。森林があることで観光客も呼び込める可能性について、住民自身が気づき、植林活動のみならず森林保全に対するモチベーションを得ることができた。

植林には多くの住民が参加し、研修やワークショップで持続可能な管理についての知識や関心を高められた。

事業をよく知る関係者の声

- ・もっと早い時期に植林活動をしてほしかった。(村長)
- ・植林活動に感謝している。継続したい。(コミュニティーリーダー)

参加者の声

- ・観光業のためにももっと木を植えたい。(40代)
- ・コミュニティフォレストにも植林したい。(スヌールレック村住民)



モンドルキリ州での植樹



植樹には多くの住民が参加



クラチェ州での植樹



森林の大切さを学ぶワークショップ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.1ha
植付本数：5800本

参加者数

カンボジア：72人
計：72人

樹種

メンガ、ケランジ

ブラジル国パラ州での水源涵養林づくり

ブラジル・パラ州



事業概要

目的は、パラ州サンタバラバラ市の小農集落内で、環境と水資源涵養に役立つ自然林に近い森づくり。その実務を地域の農産技術学校生徒に体験させ、将来アマゾン森林復元に取り組める人材を育成を行う。

主な活動は以下のとおり。①水源涵養林の拡張の意義を現地農業者協会と話し合い、合意、協力を得た。②植樹活動を行うため、現地での在来種の種を採取、農業学校内での苗木づくり、土づくりを学ぶための講習会を実施。③集落関係者、農学校生徒たち、周辺集落の子どもたちが参加する植樹祭を開催し植樹活動を実施した。

事業成果

州立高専内で、現地カウンターパート団体が、同校の研修生たちを指導して育苗に取り組み、生徒たちには、環境問題、土壌、アグロフォレストリー、水源涵養林づくりなどの講義を専門家、経験者から学ぶ機会を設けた。研修生

たちには、現地の農業者たちを訪問、見学する機会を与えている。苗木（苗畑）づくりは、植樹地の入植地の森林をはじめ近辺の植林地や自然林からも実生苗・種子の採集活動を生徒たちが実習として行った。植樹祭は12月に行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・生徒への教育支援事業と連携した体制が取れたことで、非常に良い効果が得られた。特に、パンデミックのために1年半の学校内授業が行われていない中で、生徒たちの移動を円滑に行うための経費、資材費高騰に悩まされた。しかし、苗木の活着が良く、来年2月頃までには水源涵養林の復元が見込める。人づくりと森づくりの可能性に意を強くした。（指導に当たった外部専門家）

参加者の声

- ・汗を流して働き、各種の講習を受けられ、身についた勉強ができたと思う。環境問題への取り組みを自分の将来の仕事にしたい。（林業科生徒）



高専生徒と在来種の採集



苗畑整備



子どもたちへの植樹指導



植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.12ha
植付本数：2000本
下刈面積：0.3ha
地拵え：0.12ha
講習会：6回

参加者数

ブラジル：360人
計：360人

第3期モウス沙地における砂漠緑化・生態混交林造成事業

中国・モンゴル自治区オルドス市



事業概要

過放牧等により砂漠化が進行しているモウス沙地にて、植林を通じて自然・社会条件に則した生態系の回復と事業の自立化を図るために、以下の対策に取り組む。①急速に進行する当地の砂漠化を、低木類を中心とした植栽で防止し、黄砂の発生を抑制する。②在来種を中心に植栽することで元の植生を回復させ、混交林を造成する。③自生植物を家畜に食べさせるのではなく、食べさせるための植物を植える習慣を確立する。④現地コミュニティ団体や村民と共同で事業を進め、緑化に対する意識向上を図る。⑤種子や挿し木の自給化を図り、経済的に負担のないかたちで現地コミュニティ団体に事業を移行する。

事業成果

地域住民の緑化に対する意識の変化は目を見張るものがある。活動当初はモウス沙地での緑化は難しく労力の無駄

になるのではないかなど、取り組みに否定的な者もいた。しかし、臭柏などの順調な生育を目の当たりにしたことで、このような意見は皆無となった。積極的に植林をしていきたいとの声も聞かれるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナによる影響はほぼなくなり、現地スタッフと共に作業を順調に進められた。砂漠化した土地が緑化していく様子が確認できるので、地域住民も積極的に活動に参加している。(現地パートナー代表者)

参加者の声

- ・この活動が始まる前までは砂漠化した土地が緑に変わるなど信じていなかった。しかし、年を追うごとに緑地が拡大し生態系が回復しつつある状況を見ると、方法さえ間違わなければ緑化はできると確信できた。これからの変化も楽しみにしている。(60代住民男性)



防護柵設置



黄柳の挿し木



植樹



第1期植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：18ha
植付本数：5600本
1万6800株

参加者数

日本：40人
中国：218人
計：258人

樹種

沙柳、旱柳、羊柴、臭柏

ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト

インドネシア・西ジャワ州ブカシ県



事業概要

ジャカルタ西部湾岸地域におけるマングローブ林の回復事業。放棄されたエビ養殖池跡地 4 ha の森林回復を目的とし、オオバヒルギの植林を実施した。植林事業により将来的に自然生態系の回復が見込まれ、特に天然のエビ・カニなどの漁業資源の回復が期待できることから、森林回復活動と地域住民の生計向上効果の両立が見込まれる。また、当該地域は政府が定める森林保全区であることから、本事業の成果が政府公認の森林回復活動として承認され、インドネシアの森林保全政策におけるモデル事業として位置づけられた。

事業成果

放棄されたエビ養殖池跡地を活用したマングローブ林の回復。事業実施地における優先種であるオオバヒルギ植林。計 4 ha のエビ養殖地において、2 × 2m 間隔の植付を行い、計 1 万本の植林を実施。当該地の森林管理を政府より委託

されている林業公社の技官による技術指導を通じて、政府が定める基準に則った植林を実施。植付に際しては、地域住民の要望に基づき海岸浸食の被害が発生している地点に防護林として線状に植林し、浸食による養殖池の流亡を防ぐ工夫を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・予定通りの植林が実施できたこと、地域住民の参加によって植林が実現できたこと、地域の森林回復活動にとってモデルとなり得る取り組みとなっている。(現地を管轄する林業公社職員)

参加者の声

- ・参加者は地元漁民であり、マングローブ林が回復することによってエビ・カニなどの漁業資源が増加することによって大きな期待を抱いている。苗木が活着し森林が回復するまでに数年が必要となるが、今後も自助努力を通じて森林回復に努めたい。(地域住民)



苗は地域住民が育成



支柱づくり



オオバヒルギの植樹



1 万本を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
植付本数：1万本

参加者数

インドネシア：80人
計：80人

樹種

オオバヒルギ

パレスチナ自治区カルキリア県の公立校・農地への植樹を通じた環境改善事業

パレスチナ自治区・カルキリア県



事業概要

隣接するイスラエルの違法入植地から流れ込む生活排水により、悪臭や寄生虫に長年対策を余儀なくされる対象村において、最も被害の深刻であった中高一貫公立校と、村の公共地への植樹を通して、地域の環境改善と緑化に取り組む。本事業は公立校への下水路施工を通じた教育環境改善事業と平行して実施した。主な活動は以下のとおり。①植樹場所の粗大ゴミや雑草・低木の除去および土地整備、②コミュニティ内からのボランティアの参加、③公立校には消臭効果のある花やハーブ、果樹を、村の公共地や主要道路沿いには過酷な土壌環境でも育ちやすいフィーカスやイナゴマメの木を植樹、④イノシシ対策として囲いの設置、⑤灌漑網の設置、⑥木の植え付けと生育状況についてのモニタリング、⑦追加の施肥など。

事業成果

住民や学校職員が協力して植樹会を実施した。学校閉鎖

により植樹会当日に参加できなかった学生も、後日整備された下水路の周辺や校庭に植樹を行った。移動規制下で団体スタッフが対象村に入れない時期は、行政や学校が責任を持って灌漑や定植状況を観察し、今年降雨量の少なかった雨季にも苗木が枯死することなかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・排水の問題からすぐに枯れていた果樹を植樹することができ、校内の様子が変わった。学生たちは積極的に植樹に参加し、学習環境の整備に自ら貢献した。(学校校長)
- ・植樹した木のロス率は低く順調に定植している。汚水が垂れ流されている溪谷沿いの道路では、今後木の生育を妨げる雑草や灌木の除去が必要となる。(農業専門家)

参加者の声

- ・占領体制のなか、土地に植え続ける人がいることを尊敬します。真夏の水不足から木を守るために村議会はしっかり管理して欲しい。(50代女性)



植樹地に土を入れる



学校での植樹



排水路横に植樹したレモン



苗木の囲いを設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.45ha

植付本数：700本

参加者数

パレスチナ：93人

計：93人

樹種

レモン、フィーカス、オリーブ、ジャスミン、ハーブほか

インド国オディッシャ州ゴパルプール沿岸の住民による「持続可能な生活林」づくり

インド・オディッシャ州ゴパルプール沿岸ガンジャム地域



事業概要

インド国東部ベンガル湾岸オディッシャ州はサイクロン常襲地域で、とくに2013年・2014年・2019年の大型サイクロンによる暴風と洪水で、防風・防砂の植栽が壊滅的打撃を受け、数十万人が家屋を失った。被災者には州災害復興プログラムによる復興支援集合住宅（ODRPコロニー）が建設されたが、建物本体のみで周辺の緑化などの環境再生には手が付けられていなかった。夏には気温が摂氏40度を超える地域で、周辺の緑化を求める住民の声が高まっていた。それに応え、住民が自らの手で環境再生を実現するための教育と技術研修を行い、住民による住民のための「持続可能な生活林」活動を推進した。

事業成果

この活動では以下の2種類の緑化を実施した。①ODRP



苗畑



植樹



住宅脇に植樹



コロニー近接地に植樹

コロニー近接地におけるまとまった規模のコミュニティ植林。②それぞれの住居隣接地のバックヤード（裏庭）緑化。

事業をよく知る関係者の声

- ・女性を中心としたグループ（SHG）を結成し、SHGが主体となり植林活動や植物の世話をを行うことで、主体性が生まれ、より積極的に世話をを行うようになる。コミュニティによっては女性があまり積極的ではない場所もあるため、きちんと見極めて男性も参加してもらうようにする必要がある。（パリシュリ専門家）

参加者の声

- ・この植林プログラムは最高のプログラムであり、金銭的な価値では計れない大きな支援であった。このような支援をしてくれたことに感謝する。

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：27.05ha
植付本数：6万1250本

参加者数

インド：310人
計：310人

パンチカール市 女性グループを中心とした植林と環境保全活動

ネパール・パンチカール市



事業概要

道路工事などにより木々が減少して起きる土砂の崩落を防止するため、パンチカール市女性で活動する女性グループが中心となって地域の共有林地区、土砂崩落地域、学校周辺部などに、市行政と協議して植林を実施した。また子どもたちに環境保全の意識が育つように小中学校では環境教育を実施した。

事業成果

地域の女性グループを中心とする事業にしたので、植林に多くの女性参加者を得ることができた。また、植樹後の雑草取りや刈り込みなどラブグリーンネパールのスタッフが女性グループのメンバーに木の世話にの仕方を教えて、今後、女性グループが木の育成に責任を持つようにした。苗床の設置もできたので、今後地域で苗の育成して、継続し

た植林をしていく予定である。小中学校の生徒に環境教育の講座を実施して、緑化について関心を促すようにした。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍でありながら、日本の支援により緑化活動ができたことに感謝している。ラブグリーンが地元にあった様々な種類の苗木を準備してくれて森づくりに役に立った。植樹後の苗木、苗床の苗木育成を責任を持って地域の人で育成していくことが今後の課題である。(パンチカール市3区区議長)

参加者の声

- ・日本の支援のおかげで地元に戻元する活動ができて嬉しい。(女性グループメンバー)
- ・村に緑が増えてきれいになって良かった。(女性グループメンバー)



苗木の世話をする



植樹する女性メンバー



家族で植樹



小中学校での環境教育

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.52ha
植付本数：520本
環境教育：6回

参加者数

ネパール：421人
計：421人

ゴビ地域苗場造成と緑のエコクラブ育成

モンゴル・ゴビスンベル県チョイル市



事業概要

当センターの事業活動は「モンゴル国の環境保全はモンゴル人自らの手によって森を蘇らせる」ことにある。過去15年間に渡って、モンゴル各地に中学生を中心に植林実践活動隊を組織、各地中学校に温室を設営し（挿種―育苗―植樹）の植林システムを確立させた。ゴビツンベル県が造成している森林公園30haも、当地で組織した青年植林協力隊によって造成されかつ森林公園内に植林技術講習会も開催されている。当地で組織された青年植林協力隊は今後緑のエコクラブとして活動し、その活動はモンゴル全国に広がっていくだろう。

事業成果

ゴビ地域特融の樹木を育てるため苗場の造成に取りかかり12haが整地された。ここはエコクラブのモンゴルの拠点となるだろう。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境問題で最も困難なゴビ市の砂漠化防止のための植林に取り組んでいる。ゴビ地域の環境は苛酷で、一般的な植林方法では本事業は達成しない。海外での事業展開は地元国との深いつながりの中から成功に導かれる。その点20年のキャリアを持つ当法人は当国の仲間と協力しながらこの事業を進めている。間違いなく大きな成果を生み出すだろう。（金沢大学大学院特任教授、帝京平成大学教授）

参加者の声

- ・楽しかった。育つかどうか心配。（中学生、30代女性）
- ・植樹の知識が増えたこと、いままで解らなかったことが理解できたことは良かった。これからもこの講習会を開いてください。（50代男性、40代女性）



苗場の造成



苗場に植樹



講習会



講習会受講生による苗場造成実習

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10ha
植付本数：1500本
樹勢回復：1100本
森林公園植樹：4ha
温室管理講習会：2回
植林講習会：2回

参加者数

モンゴル：200人
計：200人

樹種

マツ、ウイリス、シャルハイツ、クレムツ

燃料資源維持を目指した持続的な種苗場運営

ケニア・カカメガ郡、キスム郡



事業概要

目的は、薪燃料の採取を目的とした森林伐採が、森林面積の減少に繋がっているケニア共和国カカメガ郡およびキスム郡地域において、低価格で苗の販売を行う種苗場活動を育成し、地域住民に対して、自然への被害を補うための植林を持続的に促していくことである。主な活動は以下のとおり。①種苗場運営を行うための女性グループの組成、②種苗場の建設、③女性グループへの種苗場運営に必要な知識研修、④女性グループによる種苗場運営開始、苗の育成、⑤女性グループによる苗の販売、⑥住民参加の大規模植林イベント、⑦住民への苗配布。

事業成果

女性グループ8組がそれぞれ種苗場において、苗の育成および販売を開始した。販売は6800苗を超える。これは一カ所に集めて植えれば、小規模な森林ができる量である。販

売利益は、女性グループにとってインセンティブとなることから、活動の持続性が期待される。今後も、苗が継続的に販売され、適切に植えられていくなら、何年後には、事業地における木々の量は増加に転じるか、少なくとも現象を防ぐことが予想できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然環境の保護をめざしながらも、住民たちが参加しやすいよう、彼らの収入創出活動として計画されているところが良いと思う。(自然環境の保全は)すぐに成果ができるようなものではないが、継続されていくことで良い方向に進むと思われる。女性たちが楽しそうにやっているので、持続性はあると思う。(コゴニ準区農務省職員)

参加者の声

- ・苗を植えたので、何年後に林のようなものができるかと想像すると楽しみだ。(30代植林イベント参加女性)



農業コンサルタントから種苗場運営に関する実践講義を受ける



苗の手入れをする女性グループメンバー



農家への苗の配布



ブシアンガラ村における植林イベント

実績とりまとめ

作業内容

種苗場建設数：8基
育成苗数：約9万4000苗
植付面積：0.06ha
植付本数：1400本

参加者数

ケニア：63人
計：63人

樹種

パパイヤ、サイプレス、グラベリア、モリンガ

マダガスカルでの土砂流失防止の植林事業

マダガスカル・アラトラ省アンボヒダヴァ村



事業概要

マダガスカル共和国アラトラ省のアンボヒダヴァ村において植樹を行い、土砂災害を防止すること。主な活動は、のべ3000人以上の住民と合計2万5500本を植樹することである。参加者は、主に専門家の説明を受けながら植えていった小学生から高校生までの子どもたちであった。

事業成果

調整員をはじめ、専門家や村の世話人たちの動きがまとまってきた。彼らが今年の事業の内容をしっかりと把握して沈滞なく進められた。

事業をよく知る関係者の声

- ・住民たちが植樹することの大切さを理解し始めてきた。農

作業の時期を変更せざるを得ないのは気候変動のためだ。雨が少ない一方、雨が降ると土砂降りで土砂の流失が多い。薪が少ない。日常使う水質が悪く健康を害する例が多い。これらをの事象を改善するためには植樹が必要だと口にする住民が増えた。(事業に初めから関わる調整員)

参加者の声

- ・家の手伝いで薪を取りに行くのに、遠くまで行かなければならなかった。木がないから。(小学生)
- ・薪がないからと言って親が果実の木を切った。もっとたくさんの木がほしい。(小学生)



苗畑



植樹地へ向かう



子どもたちに植樹の説明



ユーカリ、アカシア、ピナスを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15ha

植付本数：2万5500本

参加者数

マダガスカル：3000人

計：3000人

樹種

ユーカリ、アカシア、ピナス

ネパール シンドウパルチョーク郡 地震被災地の学校の緑化と地域の憩いの場及び避難場所として活用するための緑の公園づくり

ネパール・No 2州シンドウパルチョーク郡



事業概要

2015年の地震被害により失った学校内の緑の復活による環境づくりと共に、地域の緑を増やし同時に災害時の避難場所としても機能する緑の公園づくりを行うことで豊かな地域環境を取り戻す活動の最終年度。3回の植林キャンペーンをコロナ禍の中ではあったが、村人達の参加を促して実施、同時に学校でも可能な範囲で植樹した。また、各家庭にての植林を行うための育苗を継続して実施し学校を彩る花、観葉植物、レモンなどの苗木づくりを行った。公園づくりは、現地の専門家による指導にて行った。

事業成果

公園を完成することができた。住民の協力を得ることができことは、今後さらに現地の力となって環境活動を実施できる。ロックダウンより乾季に水やりができなかったために前年度植樹した木々へのダメージがあったことは残念だったが、自宅で世話をできる植木鉢である程度の大きさまで育てるアイデアにより一部学校に彩る花に関しては植木鉢での育成を実施した。環境への高い意識が本事業で培

われたことは大きな成果である。

事業をよく知る関係者の声

- ・年々緑が復活していくことを実感している。特に住民の憩いの公園の完成は大変うれしい。これまで地域の環境にあまり関心がなかった住民もこの公園の完成が環境への関心へのきっかけになると感じている。学校の子どもの環境意識の向上は顕著である。これを維持できるように住民たちのさらなる活動の活性により、まだ沢山ある地域の環境課題の改善につながることを期待している。(村地区長)

参加者の声

- ・直接活動にかかわることによって生徒たちの植物や学校の環境に対する考え方が変わって来ていることを感じた。特に今年はロックダウン後の開校時に生徒たちから学校を植物で環境を良くしたいとの声が上がってきた。させられていた行動が進んでする行動に変わったことを感じた瞬間だった。今後も学校環境を良くする活動を継続していきたい。(小中学校長)



学校での植樹活動(ロックダウン対策で植木鉢に)



学校に植樹



公園の道づくり



公園への植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.1ha
植付本数：1470本
下刈面積：3ha
育苗：3000床
公園整地：1.5ha
歩道づくり：2km

参加者数

ネパール：427人
計：427人

樹種

ブラシノキ属、アジサイ属、
テンジクアオイ属、ナンテン
属、クスノキ属、ムラサキフ
トモモ、ハウオオボク

フィリピン・ベンゲット州における鉱山開発地域の森林再生事業

フィリピン・ベンゲット州トゥバ郡



事業概要

鉱山の採掘により環境面で深刻な影響を受けているフィリピン・ルソン島北部のトゥバ郡。水源涵養と災害減少と同時に、先住民である住民たちの生計向上を図ることを事業の目的とした。事業内容は以下のとおり。①アラビカ・コーヒーを中心としたアグロフォレストリー（森林農法）による植栽、②水源涵養と土砂崩落軽減のための共有地における植栽、③教育目的としての小学校敷地内でのアグロフォレストリーによる植栽、④コミュニティ内のアグロフォレストリーのモデルファームの設置、⑤植え替えや植樹地拡大のための苗場の建設、⑥受益者を対象とした環境とコーヒー栽培に関する技術指導講習会開催。

事業成果

新型コロナウイルス感染による政府の移動・集会規制で、現地パートナー団体の担当森林官が事業地のあるコミュニティを訪問するのにも困難を伴った。訪問回数を最小限に抑え、感染対策をして訪問し、コミュニティリーダーたちに指導を行った。彼らが中心となって、植栽作業を行った。

都市に暮らしていた若者がコロナ感染のため帰郷し、作業に加わったことにも助けられた。

事業をよく知る関係者の声

- ・パンデミックによって都市で働いていた先住民の若者たちが仕事を失い故郷の村に戻った。そして、村で収入を得るために森林の農地への転換が進んでいると聞いている。すべてを農地に転換するのではなく、環境保全のためにアグロフォレストリーを取り入れ、長期的な持続可能なコミュニティのあり方を考えた土地利用の方法を考えてほしい。コミュニティリーダーたちが優秀であり、人々の信頼も厚いことから、可能であると考え。（現地パートナー団体アドバイザー）

参加者の声

- ・パンデミックで今まで生計の根幹をなしていた有機野菜の都市部での販売ができなくなった。今後も起こるかもしれないこういった状況のために、複数の収入手段を持っていたい。コーヒーも植えられる場所に植えていきたい。（キャンプ3 MOFSAI メンバー）



苗木づくりの実習



ポット苗



苗木運搬



講習会

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1万8038本

参加者数

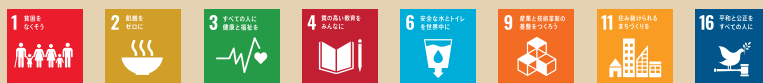
フィリピン：60人
計：60人

樹種

ハンノキ、オオベニゴウカン、アラビカ・コーヒー

モザンビーク共和国カーボデルガド州モリンガプロジェクト

モザンビーク・カーボデルガド州



事業概要

モザンビーク共和国でも貧困率の高いペンバ市のスラム地区において、開発による自然の荒廃といった環境問題と貧困問題と栄養不良の改善の複合的問題を両立解決するため、持続成長可能かつ実効力ある活動の実施である。主な活動は以下のとおり。①モリンガ、グアバ、カシューナッツを各家庭の庭に移植する。②子ども環境教育を4回実施。③地下式貯水タンクの設置。

事業成果

モリンガ、果物の苗の他、カシューナッツの苗の移植も実施した。現地はもともとカシューナッツの森があったが外資企業による開発のためカシューナッツの森がほとんど伐採・消失したため、緑化及び産業復興のため今後もカシューナッツの移植に力を入れていく。またテロとコロナで食糧難が深刻化しているが、これまで移植したモリンガの

葉を摘み取って料理に活用できている。

事業をよく知る関係者の声

- ・テロの影響で農地を移動、縮小しなければならない状況だったが、農民を支える活動として役に立っている。(農業グループ)
- ・子どもたちの木に対する興味や植物を育てる気持ちが年々育まれている。これからはカシューナッツに力を入れて森を取り戻す活動に力を入れると良い。(講師)

参加者の声

- ・前に植えたモリンガが育ったので料理に使った。家の庭でトウモロコシを植えることに挑戦をはじめた。(子ども)
- ・モリンガはしっかりした幹に育たない場合もある。カシューナッツは大きな木になるので植える場所を考えて大切に育てたい。(主婦)



ポットの土づくり



苗の移植



子どもたちの環境勉強会



貯水タンク建設

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha

植付本数：844本

参加者数

モザンビーク：189人

計：189人

樹種

モリンガ、グアバ、レモン、マンゴー、カシューナッツ